

令和8年度第2回表面物性研究会

－ 陽極酸化処理の基礎と応用展開 －

日 時 : 令和8年10月19日(月) 13:30~16:50

開催方法 : (地独)大阪産業技術研究所森之宮センター 4F 小講堂
ならびに、ZOOMによるオンライン配信

主 催 : (一社)表面技術協会関西支部

協 賛 : (一社)エレクトロニクス実装学会関西支部, 近畿アルミニウム表面処理研究会,
(公社)電気化学会関西支部, 電気鍍金研究会,
(公社)日本材料学会関西支部, (公社)日本表面真空学会関西支部

プログラム:

開会の挨拶 日野 実(表面技術協会 関西支部 支部長)

(1)「アノード酸化で創る機能性酸化物表面 — 自己組織化ナノ構造からエネルギー変換電極まで —」

13:35~15:05

北海道大学工学研究院 応用化学部門 機能材料化学分野 教授 幅崎 浩樹 氏

金属・合金のアノード酸化は、アルミニウムの耐食・装飾性向上技術として汎用される一方、近年では特徴的なナノ構造や機能性酸化物を形成する材料創製プロセスとしても注目されている。本講演では、皮膜成長の基礎からAl・Ti・Feなど種々の金属・合金への展開を概説する。さらに、光・電気化学機能やエネルギー変換電極への応用例を紹介し、アノード酸化による機能性表面創製の可能性を展望する。

(2)「アノード酸化による多孔質酸化被膜創成と応用：チタンおよびチタン合金を中心に」

15:20~16:50

大阪大学大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻 教授 土谷 博昭 氏

酸性電解液中でのアノード酸化によりアルミニウム上に多孔質酸化被膜が形成することが知られ、形成の機序や応用に関する研究が盛んに行われている。2000年前後からフッ化物を含む電解液中でのアノード酸化によりアルミニウム以外のバルブ金属・合金上にも多孔質酸化被膜が形成することが報告され始め、現在では様々な金属・合金上への多孔質酸化被膜の創成と応用が検討されている。本発表では、バルブ金属・合金の多孔質酸化被膜研究の黎明期から現在までの研究動向を、チタンおよびチタン合金を中心に紹介する。

◎参加費 : 会員・協賛団体会員 : 3,000 円, 一般 : 5,000 円, 学生 : 1,000 円(消費税含む)

◎定 員 : 会場 72 名, オンライン 100 名

◎申込締切 : 10月5日(月)

◎申込方法 : 参加ご希望の方は、支部ホームページよりお申込み下さい。

<http://kansai.sfj.or.jp/gyoji/busei/index.html>

※参加申し込み受付後、振込先をお知らせします。(振込期限:10月13日(火))

現地参加の方も事前のお振込をお願いいたします。

◎申込・問合せ先 : (一社)表面技術協会関西支部 事務局(担当:石川, 森)

〒606-0805 京都市左京区下鴨森本町15番地 (一財)生産開発科学研究所内

TEL:075-781-1107/E-mail:kansai-office@sfj.or.jp